
入園期

幼児の教育、第六十九卷第六号で、「入園期の子どもと保育者の心のつながり」について、堀合文子先生に話していただきました。先生は子どもたちの名前をおぼえておいて、子どもに会った時に子どもの名前をよぶことのたいせつき、朝のむかえ方のたいせつき、先生の居所をはっきりわかるように話すたいせつきなどについて述べていらっしやいます。

入園後まもない子どもたちが、幼稚園でどのような生活をしているかを、記録をとおしてみようことにします。

入園まもないころの保育



堀合文子
平野信子

四月九日 火曜日 晴れ

八時五十分

保育室には、先生と①（女児）がいる。先生は花瓶に花をい

け、①は、先生のそばにいる。

先生「お外へ行く？」

「お友だち、いらっしやらないかしら」

「チューリップがきれいね」と、①に話かける。

①と先生で、「チューリップ」の歌をうたう。

①は兄のことを話している。先生は、それに対して、うなずいたり、「そうなの」といったりして応じている。

先生「外（庭）のどこに行ってもいいわよ」

①は、ゆっくりと靴をはきかえ、他のクラスの子どもが遊んでいるようすを見ている。つま先で、砂をいじったりしている。

先生「先生はここにいるから」（庭と保育室の入口の両方が見えるところにいる）

①は、山のすべり台へ向かう。五、六歩進んでは、先生の方を振り返り見る。

すべり台へゆっくりと登り、上でしばらく庭を眺めている。

すべり台を、ゆっくりと足で滑りを止めながら降りる。滑り終わると、しばらくの間、台の一番下にすわっている。二回目は、一回目より早く登り、いきおいよく滑り降りる。

他の子どもが滑るのを眺める。三回目は、走って登り、いきおいよく滑る。満足そうな顔をしながら、保育室に戻っていく。

先生は登園して来た子どもに「おててを洗って」といっている。

①は室内を見わしている。

先生「困った時は『せんせい』と呼んでね」といっている。

先生は、近くにいた女兒と①の手をつながせて、庭への出口までつれていく。

①は、先に立ってすべり台へ行き、いきおいよく滑る。滑っている前の子どもがビョンと降りると、①は、真似てビョンと降りる。

何回か滑ったあと、砂場に先生がいるのを見て、砂場へ行く。

先生「お砂をしましょうか。(シャベルを持って、砂を掘りなが

ら誘う)」

①と他のひとりが、ジョウロとシャベルを出して砂掘りをはじめる。他の子どもは、①が砂を掘っているのを見ている。

H(男児)が、①の隣で穴を掘り始める。

①は、Hの穴に水を注ぐ。①が何回か水を注ぐのをHは見ている。

水道で①が水を出すと、Hがそれを水くみで受ける。Hが水をこぼすと、二人は顔を見合わせてニコツとする。

しばらくして、Hは自分の靴が汚れたのに気づき保育室にいる先生に見せにいく。

先生「それは、お外の靴だから汚れてもかまわないのよ」

Hはニコリと笑って砂場へ戻っていく。

Iは「お帰り」近くになるまで泣いている。

お帰り

先生は全員の名前を呼ぶ。

「Sちゃんがいらっして、Aちゃん、Bちゃんがいらっして、……」

四月十日 水曜日 晴れ

八時五十分

Mが母につれられて登園。

保育室の入口まで来ると、母のうしろに隠れてしまう。

先生「見つけたあ、見つけた。（ニコニコと笑いながら、入口まで走って行く）」

「きのう、よく遊んだわねえ。（先生は母のうしろにまわりMと顔を合わせて手をつなぎ保育室にはいる）」

次に来た子どもとも先生は手をつなぎ、水道へつれていく。

Mはうがいをするのに、顔に水をかけてしまっは、それをおもしろがり、足をビョンビョンとはね、喜ぶ。

先生はそれを見ながら机をふいたりする。Mが急に泣き始めると、先生は「どうしたの」といいながら、すぐに抱きあげてあやす。

庭で、木の自動車がひとつしか空いていないのに二人の子どもが乗りたがる。

先生「仲よく乗れないかなあ。（一人一人抱き上げて二人を乗せる）」

「二人で並んでお花畑まで、しゅっぱあつ」（花壇を一周し、川の組まで戻ってくると、二人ともニコニコしている）」

登園した子どもが入口に来ると、先生は何をしても「おは

ようございます」といいながら、笑って必ず入口まで迎えに行く。

九時

Iは、登園してから、ずっと、机に向かい泣いている。時々泣きやみ、他の子どもが遊んでいるのを眺め、また思い出したように泣いている。

先生と他の子どもは、汽車を作ったり、レゴで遊んでいる。

先生「汽車ポッポを作ってもいいのよ」

「汽車がIちゃんのところへ行きます」

Iは先生が自分のまわりをまわるのを黙って見ている。

Eがロケットをレゴで作り、先生に見せにくる。先生はそれを受けとる。

先生「Eちゃんのロケット行っちゃった」（部屋中を、そのロケ

ットを高く掲げて走りまわる）」

Iは、先生の行動を目で追う。足をもじもじさせ、先生が外のようすを見に庭へ出るとあちこち見まわす。

先生が外から戻ってくる。

先生「Iちゃんも積み木作らない？」

「あら、象さんにごはんあげてるの」（ままご）をしている子に対して）

「Eちゃんの(ロケット)先生のいないうちに随分大きくな
ったわねえ」

「みんな、おしっこに行きたい時行ってね」

Iは、おしっこのため、先生のところへ行く。

先生「おしっこに行ってくださいね」(Iの手をとりながら)

先生がトイレに行ったあと、保育室では、「先生、おしっこ」

とひとりごとのようにいいながら、それぞれの遊びをしている。

先生「ごめんください。たがいま」(トイレから戻り、戸口で部

屋を見まわしながら)

「Iちゃんもやりましょう」(近くにあったレゴに誘う)

Iは、前にすわっていた椅子に戻る。

先生は、ままごとをしている所へ、客として入る。しばらくすると、Iは先生のところへ来る。

先生「お茶をどうぞ」

「Iちゃんもどうぞ。ここへどうぞ」(先生がかけていた椅

子に、Iをかけさせる)

Iは、他の子どもを見ながら、出されたお茶をスプーンで飲

む。

先生「違うごちそうを出しましょう。ちょっとお待ち下さい」

「バイナップルをどうぞ」

I(「口に入れ)カリ、カリ、カリ……ああ、おいしかった」

先生は、ままごとから抜ける。Iは、電話のところへ行き、受話器を耳にあてる。先生が、ままごとに戻ってくると、Iは元の席に戻り、バイナップルを食べる。

先生「新しいごちそう出しますね」

「はい、これあなたのです」(Iに)

HがIにトーストとコップを渡すと、受けとる。

I「ちょっと、お茶を早くくださいな」「早く入れて」

Hについてもらい、飲むふりをする。

I「お茶ちょっと誰かがこぼしましたよ」

席を立ち、コンロへ行く。

I「今度はいちごを持って行こう」(コップにバナナと何かを入れ、机の上に並べる)

Hと向かい合い、トーストを食べるまねをする。かごに果物を拾う。

棚の上のやかんなどを整頓し、なべ、かまをコンロにかける。

他の子どもは机のまわりにすわり、絵をかき始めるが、Iは一人でままごとのところにいる。

「お茶」といってはコップにつぐ。時々、所在なげに、ふらつと立ち上がったたりする。なべに果物を入れ、また皿にも盛る。

先生の方を見ながらアイロンをかける。

I 「先生、アイロン、かけましたよお」

先生「Iちゃん、いっしょうけんめいアイロンかけて、きれいに
なること」(遠くから声をかける)

Iは絵をかいている方に行きたそうに靴をはくが、またコンロ
の方へ戻る。先生の方を見て、またアイロンをかけ始める。

先生「(Iの近くにきて)きれいになったわね。さっきからアイ
ロンかけて、あらきれいになっちゃったわねえ」

しばらくして靴をはくが、また戻る。

先生が、ままごとのパンを持ってくる。

Iは、パンを机の上に並べる。

先生「せっかくできたから、みんなで食べましょうか」という
が、他の子どもの用事で離れる。

Iは、ポットをさわったりする。靴をはくが、またままごとに

戻る。畳の上に落ちていたものを片づける。

I 「(先生に) ぼく、クレヨン持っている」

先生「そう、いいわねえ」

「きょう、Iちゃんえらくて、先生びっくりしちゃった」

Iは、ままごとの窓からのぞいたり、「アー、アー」と大声を

出す。

ポット、果物などを、あちこちと動かし、一人で遊んでいる。

子どもが二人、ままごとコーナーに来るが、相変わらず一人で遊
んでいる。

九時四十五分

一人の子どもが絵を描き始める。

Hも描き「先生、怪物」といって見せる。

K「ぼくもかきたいなあ」(先生のところへ行く)

他の子どももサーッと集まり、十人の子どもが絵を描く。その
中のEが、あちこち見まわし始め、あきたようすを示す。

先生「やめていいのよ」と声をかける。

先生は、子どもの活動の邪魔にならないように、必要以外の物
を片付けていく。

絵を描いている子どもを見ながら、

先生「あら、きれいに、かけたわねえ」

「みんな、おりこうさんで、エーン、エーンという赤ちゃん

みたいな人も、いなかったわね。先生、びっくりしちゃった」

Rがクレヨンで描いた絵を見せにくる。

R「もういいの、もういいの」

先生「もういいの、もういいのねえ」

お帰り

先生「お帽子持ってきて下さい。Iちゃん、わかるかしら？」

I「わかる」（大きな元気な声で）帽子を取りに行つて、かぶつて戻ってきて、椅子にすわる。

先生「Oちゃん、どうしたんでしょう？」

I「もう、直っちゃった」

先生「そう、もう直っちゃった」といいながら、廊下の方へ探しに行く。

他の子ども「堀合せんせーい」

I「むこうへ行っちゃったよ」といいながら席を立つ。

廊下へ探しに行く。「おい」と大声を出しながら、手を振り

まわして、玄関の方へ走つて行く。走つて部屋に戻り、席につくが、積み木をしているのを椅子に立ち上がつて見ている。

また先生を探しに廊下へ走つて行く。また戻り、椅子にかけ、そのあと、部屋をブラブラと歩く。

先生が戻ってくるのと走つて行く。先生のあとについて歩く。

他の子どもは玄関の方へ走つて行く。

先生「みんな、戻ってくるかしら」

I「ぼく、呼んでくる」玄関の方へ走つて行く。

帰りの時、先生は紙芝居をする予定がなかったが、子どもたち

が「紙芝居！」「赤ずきん！」等々、口々にいうため、することになる。

先生「大急ぎで行ってくるから待っていてね。赤ずきんさん持ってくるわね」「数を数えて待っていてね」

実習生といっしょに、声を合わせて「ひとつ、ふたつ……：とおい」と数え何回も、くり返す。

立ち上がつて、指を折りながら数えている子どももいる。

先生「赤ずきんさん、いなかったわ」と、違う紙芝居をする。

帰りぎわ、先生に触りに何人も出て行き、先生にだいてもらい、急いで席に戻る。

堀合せんせいの話し合い

（絵を初めて描いたことについて）

十日に、絵を描くことができてきたが、予想外のことだった。家にいる時に描いていたのだと思う。

（Iの行動について）

緊張していた子どもが、ニコッと笑うと教師自身もホッとする。

（子どもがいったことを、すべて受け入れることについて）

先生と子どもとの間に、早く信頼関係ができればと思つてい